

## 琉球大学教育学部との第2回連携協力推進会議

昨年集結した連携・協力に関する協定書に基づき、去る2月9日(月)に、島尻教育研究所と琉球大学教育学部とで、第2回連携協力推進会議を琉球大学教育学部会議室にて開催しました。

次年度の連携協力の推進を行うため自主講座開催の協力やアドバイザースタッフ派遣事業などについて協議し、事業の具体的な推進について確認しました。

## 【会順】

- (1) 開会の言葉
- (2) あいさつ
  - ・島尻教育研究所 所長 上原勝晴
  - ・教育学部附属教育実践総合センター センター長 大城 賢
- (3) 協議
  - ① 長期教育研究員の報告会への学生の参加
  - ② 自主講座開催の協力
  - ③ 適応教室「しののめ教室」への学生ボランティア
  - ④ H27年度研修事業への協力
  - ⑤ 「アドバイザースタッフ派遣事業」
- (4) 連絡事項
  - ① 「琉球大学教育学部附属教育実践総合センター地域連携事業部門 成果報告交流会」の開催について
- (5) 閉会の言葉



写真1 会議の様子



## 幼児教育担当指導主事講話「命と家族」

指導主事講話の第2回目は、2月10日(火)に嶺井洋子指導主事による「命と家族」をテーマに行いました。

「命」や「家族」に関する絵本3冊「命のまつり」「かぜのでんわ」「ロバのシルベスターとまほうのこいし」の読み聞かせと、ブラジル在住の病気の叔母をお見舞いに行った中でブラジルの日系の皆さんが、故郷沖縄を思う姿と古き良き沖縄の文化の継承、家族や親戚のつながりの様子がわかる写真を電子黒板に大きく映しながらの講話でした。

## 【指導主事講話の主な内容】

- 指導主事講話について
- 1 絵本の読み聞かせ
  - (1) 「命のまつり」
    - ぼくの命はどこからきたの
  - (2) 「かぜのでんわ」
    - かぜの電話は心で話す
    - なぜ生まれ、なぜしんでゆくのか
  - (3) 「ロバのシルベスターとまほうのこいし」
    - 子どもをおもう母や父の思い
- 2 ブラジル在住の叔母を訪ねて
- 3 うちなあぐちカルタ



写真2 絵本の読み聞かせ

## 後期教育研究員の感想（研修日誌から）

嶺井指導主事の講話は「いのちと家族」をテーマに話をして頂きました。まず3冊の絵本の読み聞かせから始まりましたが、嶺井指導主事の絵本を読む時の優しい語り口や間のとり方を聴いていると、あっという間に絵本の世界に入り込んでしまう自分がいました。また読んでいる時の優しい表情を見ると心が穏やかになっていくように感じました。2冊目に読んでいただいた「かぜのでんわ」は、実話の方は知っていたが絵本もあることは知りませんでした。肉親を亡くし心の拠り所を求めている動物たちが風の電話を求めている時の気持ちが、絵本を通して伝わってきて涙があふれそうになり、「いのちとは？家族とは？」と考えさせられる絵本でした。学級の子どもたちにも読んであげたい本の一つになりました。またブラジル在住の親戚の方との交流の話も人と人との絆をととても大切にしていることを感じました。特に沖縄とブラジルではすぐに行き来できる距離ではないので、会える喜びも一入だろうと思いました。うちなあぐちかるたは大勢で楽しみながら方言に親しむことができるので、学級でも活用したいと思います。CD付きのかるたもあるので、言葉だけでなく発音も一緒に子どもたちと楽しみながら学べる機会をつくりたいです。（安座名有里）

「いのちと家族」をテーマに読み聞かせをして頂きました。「いのちのまつり」は自分でも読んだことはありますが、間の取り方や指さす順序などで雰囲気の変化することが発見でした。「かぜのでんわ」は、周りの人に優しい気持ちにならなきゃといけないと感じる本でした。一瞬一瞬を大事に過ごしたいと思いました。「ロバのシルベスターとまほうのこいし」は、ハッピーエンドにはなりましたが、魅力にとりつかれて周りが見えなくなることへの注意にも思えました。

12月の研修で「絵本にはテーマがある」ことを学びましたが、今回は「いのちと家族」を深く考える機会になりました。特に、「かぜのでんわ」は、お家でも、クラスの子にも読み聞かせしたい一冊です。ブラジルでの話は、移民で苦労した分、すごく絆が強いんだろうなと感じました。

最後のウチナーグチカルタは、子ども達にも、私たち復帰世代にも必要なものだと感じました。実家へ行ってウチナーグチに触れる機会を増やしたいと思いました。嶺井指導主事の講話でたくさん気づきが持てました。ありがとうございました。（勢理客貴之）

嶺井指導主事より、絵本の読み聞かせをして頂きました。1冊目の「いのちのまつり」は以前、道徳の授業で扱っているのを見たことがあります。かなり前だったので忘れていた所も多く新鮮な気持ちで聞けました。命の繋がり、大切さについて考えさせる沖縄のよい教材だと思います。2冊目の「かぜのでんわ」からは、会えなくなった人へ語りかける切ない気持ちが伝わるのと同時に、今、自分と関わっている人を大切にしたいという気持ちが生まれる本でした。3冊目の「ロバのシルベスターとまほうのこいし」は、自分が家族からどれだけ大切に思われているかを再確認できる本でした。嶺井指導主事の声は優しく、場面で抑揚や声色を変えて、子どもも聞き入るであろう読み聞かせで、本を読み込み、理解してこそだと思います。

ブラジルの親戚の話では、病気のおばさんを車いすに乗せて、親戚の家を廻るという所で、同じような立場で、自分がそこまでできるか。と考えさせられました。

最後のウチナーグチカルタは、みんなで和気あいあいと、方言の勉強をしながら楽しく競うことができました。学校で子どもにもさせて、方言に触れさせたいと思いました。（比嘉俊雄）

今日、嶺井指導主事が絵本の読み聞かせをして頂くに当たって、心がけたことがありました。それは、できるだけ字を読まないこと。絵本を読み聞かせしてもらう時には、幼児は字を追いながらお話を聞いていないだろうという私なりの想定をたて、幼児になったつもりで、嶺井指導主事の声に頼りにストーリーを追いかけてみました。しかし、自分では聞いているつもりだったのですが、聞き逃したと思って時々字を追ってしまいました。読み聞かせして頂いた3冊のうち、知っていた絵本は「いのちのまつり」のみ。「かぜのでんわ」は動物たちの純真な思いがとても心に響いて涙が出てしまいました。私達には心の声を聞いてくれる誰かが、何かが必要だと感じさせられる絵本でした。そして、「ロバのシルベスターとまほうのこいし」は親の愛情と親子の絆を感じさせてくれるお話でした。人との関わりって必要だと思いました。自分とは違う視点で生活していたり、自分とは違う生業をしている人々との関わりは、自分の心の窓を1つ増やしてくれます。

嶺井指導主事、今日は私にとって心の肥やしを頂くことができました。ありがとうございました。とてもあったかい気持ちになりました。（古謝栄子）